

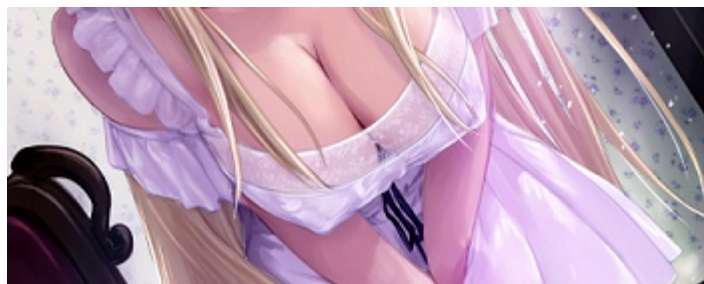
大決壊!

お嬢様排泄調教

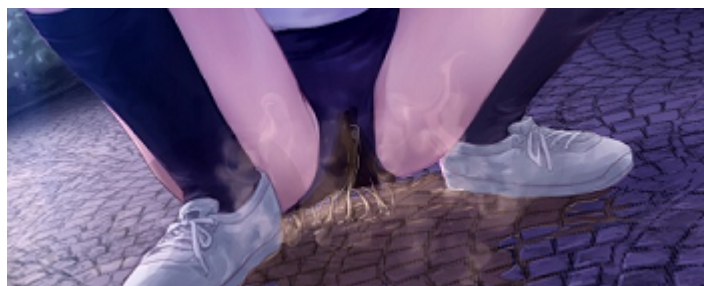
The noble girl excretory discipline



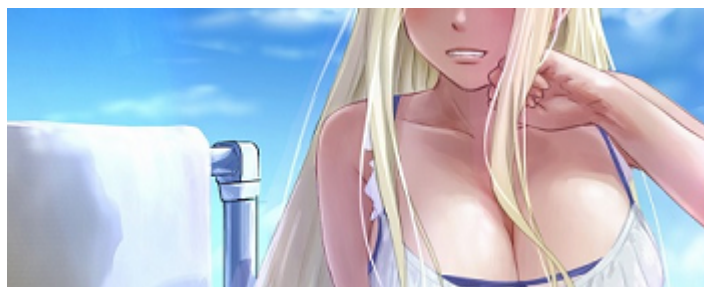
† 1 週目 少女、排泄調教中 P4



† 2 週目 首輪調教 P27



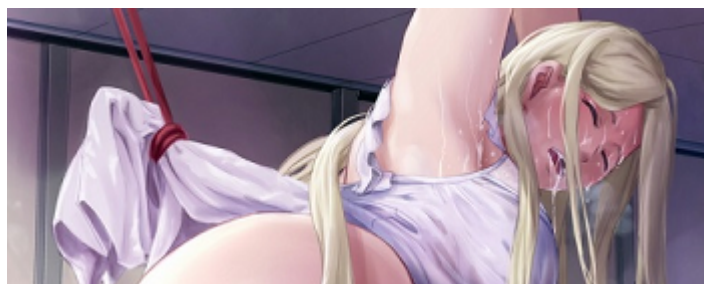
† 3 週目 おねしょの公開調教 P59



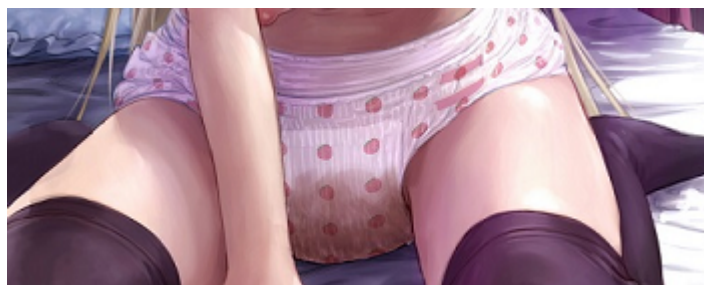
✦ 4週目 地下室での緊縛調教 P91



✦ 5週目 三角木馬悶絶調教 P136



✦ 6週目 おむつ排泄調教 P155



✦ 終章 新しい調教へ P186

むふふ (既刊CG) P189

ぎゅるるるる！ ごぼぼっ！

キュルキュルキュルッ！

どんなに我慢しようと思っても、体内の蠢動を止めることができなくなっていた。

極限にまで高まった圧力が、大挙して直腸に襲いかかってくる。

「お尻壊れる！ んおお！ おほっ!？」

「我慢は身体の毒だぞ。早く出してしまえ」

「誰が……、出すもの、かぁ……っ」

ぷちゅっ。

口では抵抗しても、肛門から熱いものが漏れ出してきてしまう。それがきっかけだった。

「んおお!? おおおおおおおお！」

もこりっ。

もこもこもこもこもこっ！

直腸を一気に駆け抜けていくのは極太の硬質便。

いつも出すときは苦勞しているというのに、こんなにもスルスルと出てくるだなんて。

それは美久の知らない感覚……紛れもなく快樂だった。

(うんちが……溢れ出してきてる……！)

もりもりもりもりもりっ！
ぼふっ！　　ぶぼぼぼぼぼぼ！

純白のショーツが一瞬にしてパンパンに膨らんでいく。
まだお腹にこんなにも残っていたことに、美久自身も驚くほどの量だった。

「まだこんなに溜め込んでいたとは驚きだな。このクソ袋め」
「うっあああああああ！　　で、出る……！」

ぶりゅぶりゅぶりゅっ！
ぶぼ！　　ぼふっ！　　ぼふふっ！

もはや止めることはできない。
大腸の圧力は極限にまで高まっているし、それになりよりも美久自身が排泄することに快感を覚えてしまっている。

「ショーツからはみ出してきてるぞ。なんて太くて臭いクソだ」
「止まらない……！　　止まらなくなってる、よお……！」

ブボボボボボ！
ブババババッ！
ニュルルルルルルルルル！



極限にまで拡張されてきた美久の肛門からは極太のうんちが漏れ出してきて、ショーツの足口から溢れ出してきていた。

それは少女としてあまりにも情けない姿。

だが美久の肛門は本能のままに穢れた欲望を垂れ流している。

「んおお！ おごっ！ んぎもち……いい……なんて……おか、しいい……よおおおおおおおおおおお！」

ポトポトッ！

ベチョッ！

グチョチョ！

ショーツから溢れ出してきた極太便は大蛇のように顔を出すと、三角木馬を這い落ちて石床にトグロを巻いていく。

それはあまりにも醜い光景だった。

（こんなに恥ずかしいところ見られてるのに気持ちいいなんて……！ 屈辱的なのに……！）

漏らしているのに気持ちいいだなんて。

情けない姿を晒し、美久の肉体には快樂が刻まれていく。

ぐちゅっ！　ぐちゅっ！　ぐちゅっ！

ロープを握っている闇野が、身体を上下に揺すってくる。

美久の股間には茶色いものが深いところにまで食い込んできて――、

「ぐっ、ぐは……っ」

美久は下品な鳴き声とともに、身体を弓なりに反らせる。それは美久が惨めな絶頂を極めた瞬間だった。

「どうやら達したようだな」

闇野は事務的な口調で言い放つ。
だがその声は美久に届いてはいなかった。

「えっ、えええ……げええ……」

美久は白目を剥いて、舌を突き出して気絶していたのだから。それでも美久に与えられる恥辱は終わらない。気絶したことによって尿道も肛門も弛緩したのだろう。

むにゅううううううう……。

しゅいはいいはいいはいい……。

白目を剥いた美久は、なんの躊躇いもなく緩みきった穴という穴から身体の内容物を垂れ流すことになった。

白目からは涙。

鼻からは鼻水。

口からヨダレ。
尿道からは小水を。
肛門からは大蛇のような硬質便を。

「……ッ！ ……ッ！ ……ッ！」

ビクン……ッ！ ビクン……ッ！ ビクンッ……！

さらには痙攣するたびに白濁した本気汁までも漏らしていた。
気絶してもなお、少女の絶頂は終わってはくれない。
いつまでも、いつまでも――。

**ここまで読んでくれてありがとうございます！
体験版はここまでです。**

**次のページからは既刊のイラストを置いておきます。
最後まで楽しんでもらえると思います！**

大決壊シリーズ
各種DLサイトで配信中！



